

なぜ亀岡市は政府より早く プラスチック提供禁止条例を出せたのか

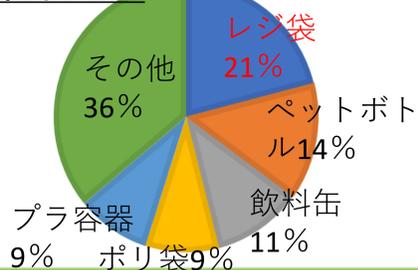
林ゼミ エコびよん



◆ 背景

船頭・市民の清掃活動
→レジ袋提供禁止条例を制定
→マイバッグの持参率は98%(2021年3月)

保津川のごみ



◆ 研究意義

- ・地域利害関係者の合意形成には何が必要か
- ・自治体が同様の条例を制定する際の合意形成を助けることができる

グラフ:亀岡市HP「かめおかプラスチックごみゼロ宣言の背景」より作成

◆ 先行研究・問い

- ①合意形成・利害関係者の参加の重要性
- ②信頼関係と計画に対する理解が必要
- ③問題認識の一つの要因：社会指標の変化

→ 行政と地域利害関係者との間でどのように合意形成がなされたのか



◆ 仮説

① 亀岡市の環境の変化

保津川の環境
変化があったのではない
か？

② 地域利害関係者の参加度合い

(1)情報提供(2)意見聴取(3)形だけの応答(4)意味のある応答(5)パートナーシップ

③ 地域利害関係者の参加の早さ

i 作成段階 ii 計画段階
iii 事業段階

◆ 分析手法

仮説①市役所やNPO法人のHPで確認

仮説②・パブリックコメント、議事録の分析

・亀岡市役所・企業スーパーマツモト

NPO法人にヒアリング

仮説③亀岡市役所HPで年表閲覧、ヒアリング



◆ 分析結果

① 環境の変化

- ✖: 清掃活動が条例の動因、保津川の存在
- 👤: 保津川のごみ問題は身近、清掃活動の拡大
- 🔄: 地元の環境問題→協力

② 地域利害関係者の参加度合い

- 段階1: 市民説明会 段階2: 市長選、企業に聞き取り
段階3: 市民説明会 🗣️ 他のプラごみの多さ、ポイ捨て増加
消費者、サービスの意識改革
段階4: 亀岡協議会での議論 (10回弱)
段階5: 住民に責任を課さないため実施されていない

③ 地域利害関係者の参加の早さ

- 条例の体系を決める計画段階：亀岡協議会での議論
✖: 素案作成後



◆ 考察

- ① 条例に関わる地域の象徴的なものの存在
→ 環境の変化を実感・問題認識させ、議論の参加を促す 亀岡市：この要因が顕著
- ② 早い段階からの地域利害関係者の参加は大事だが、彼らの参加度の高い議論の場が必要

→ 地域が一体化できるものに関連した条例を制定

◆ 参考文献

秋吉貴雄『入門公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』(中公新書、2017年)36-41ページ。大沼進、中谷内一「環境政策における合意形成過程での市民参加の位置づけ：千歳川放水路計画の事例調査」(社会心理学研究第19巻第1号、2003年)。亀岡市「亀岡プラスチックごみゼロ宣言～世界最先端の『環境先進都市・亀岡を』目指して～」(2018年12月13日)

[<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/uploaded/attachment/13785.pdf>] 倉阪秀史『政策・合意形成入門』(勤草書房、2012年)148-153ページ。高田知紀・豊田光世・佐合純造・関基・秋山和也・桑子敏雄「社会基盤における合意形成の構造的把握に関する研究」『土木学会論文集F5(土木技術者実践)、Vol. 68No.1、2012年、29-36ページ。』原田禎「プラスチックごみ宣言にみる自治体の政策形成の展望と課題」(環境経済・政策研究Vol.12、No.2、2019年)。原科幸彦「環境アセスメントと住民合意形成」(『廃棄物学会誌』13巻3号、2002、30-31ページ。) 山内剛「プラスチックごみゼロ宣言ー京都府亀岡市」(月刊地方自治研 自治権中央推進委員会機関紙、2019年、49-55ページ)。